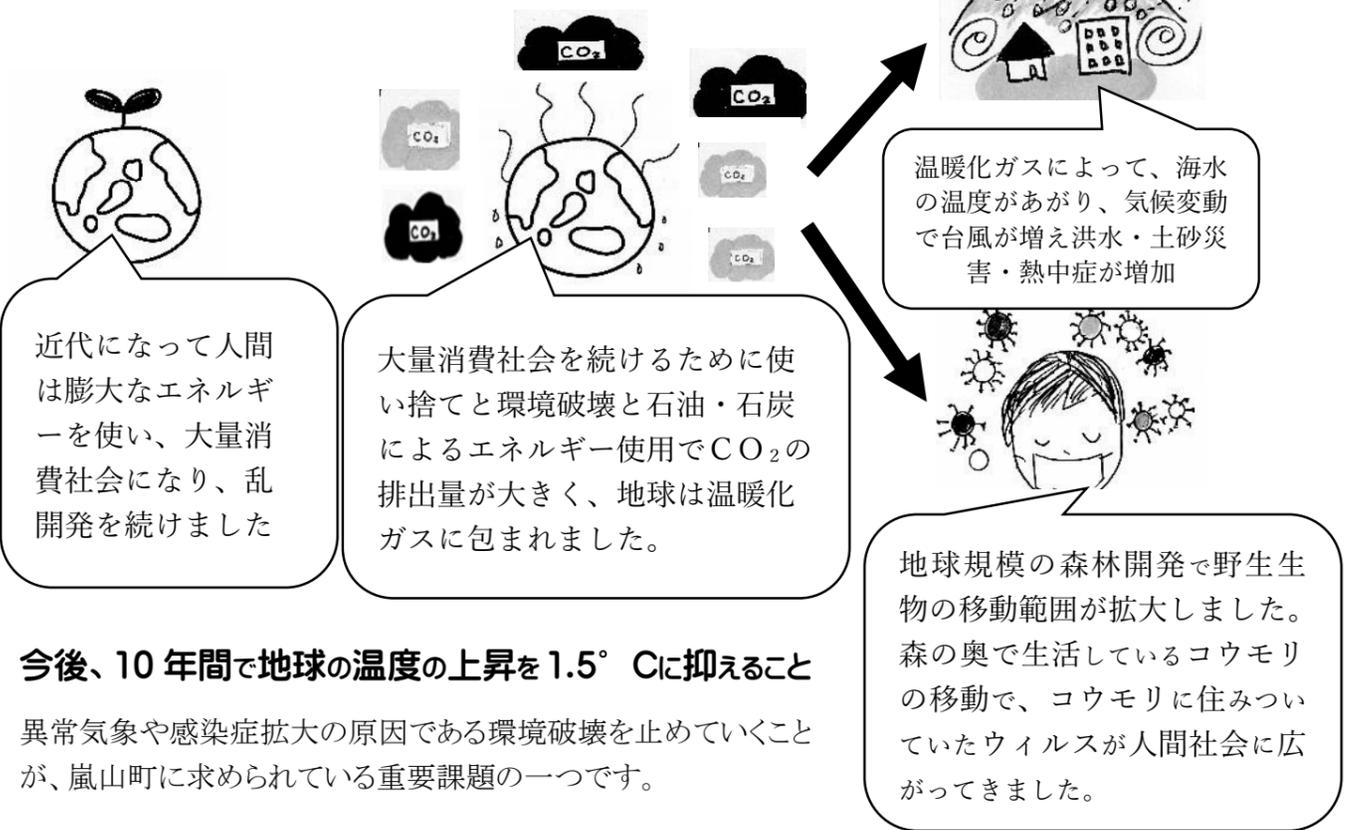


■ CO₂排出^{ゼロ}で

感染症・自然災害を抑えよう！



今後、10年間で地球の温度の上昇を1.5°Cに抑えること

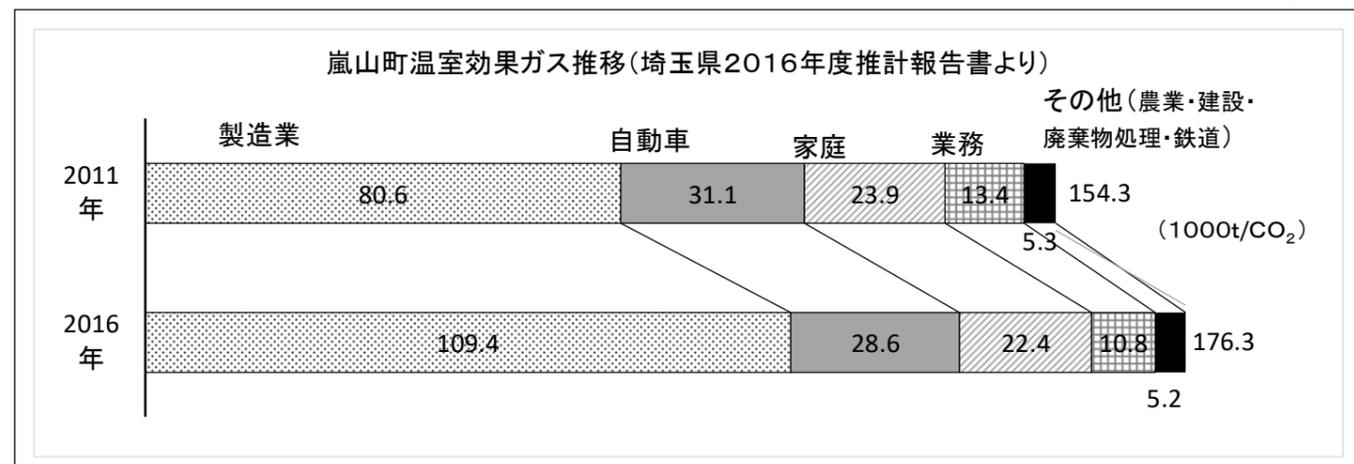
異常気象や感染症拡大の原因である環境破壊を止めていくことが、嵐山町に求められている重要課題の一つです。

嵐山町の温室効果ガス(CO₂など)増加

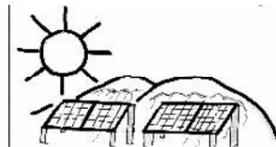
- 下のグラフの「嵐山町温室効果ガス推移」では明らかに増加しています。
- 嵐山町では製造業の排出量が増えています。自動車からの排出量、家庭や業務系(公共・ビル管理)の排出量は減少しています。
- 山林開発(太陽光発電や工業団地拡張)が進みCO₂の吸収が減少したと推測します。

嵐山町でエネルギー自給を考えましょう。

- エネルギーは、石油・石炭・天然ガスから、自然エネルギー、(太陽光発電・風力・バイオマス等)に代えていく政策が必要です。
- 太陽光発電は、嵐山町には適しています。屋上・屋根設置や営農型ソーラー(水田や畑の上に太陽光パネルを設置します)を進めたい。
- 屋根や営農型ソーラーで町民発電所を設置し売電、町民がその電力を購入すると電力自給はできます。



■ 止めよう 山の太陽光発電建設



■ 太陽光発電は、CO₂を削減して気候変動を抑えるために有効です。

■ しかし、山野を切り崩しての太陽光発電建設は、豪雨時、土砂崩れの原因になり、緑を削減するので、CO₂吸収の減少になります。

■ 議会文教厚生委員会では山を壊す太陽光発電を規制する条例制定に向けて調査しています。嵐山町には 20kW 以上の山林などへの太陽光発電は稼働中と未稼働を含め 132基あります。

■ 50KW以上の太陽光発電は、経済産業省の定める発電所になるため、保安規定を届け出ます。50KW以下だと保安規定の届け出は不要です。そのため、49.5KWの太陽光発電が半分近くになります。

■ 4~5年前から比企郡で問題化していました。薪を使うことがなくなり里山の管理が難しくなっています。地権者の里山を有効活用したい思いが太陽光発電建設業者と合致し、山林崩壊の心配につながっています。

■ 里山の自然は環境を守るために必要です。里山を公共の資産として保全すること、持ち主から寄付の申し出があれば寄付を受け、公共が管理することも気候変動を抑える方法として有効です。

■ 里山を守るため、嵐山町と議会の真価が問われます。